

PRAEVIDENTIA DAILY (11月22日)

昨日までの世界：ドル/円は103円が視野に入る

昨日は、前日の10月分FOMC議事要旨後のドル高の余韻が対円、対豪ドルで続いた一方、ユーロやポンドなど欧州通貨は対ドルで上昇した。ドル/円は、米長期債利回りは上昇が一服していたものの、日経平均の上昇と歩調を合わせるかたちで100円丁度近辺から断続的に上昇し、米新規失業保険申請件数が32.3万人と予想比少なく良好な内容となったことが明らかになるとその後ほどなくして101円台乗せへ続伸した。その後フィラデルフィア連銀製造業サーベイは逆に6.5と市場予想(15.0)および前月(19.8)を大きく下回ったもののドル反落は限定的で、NY時間引けにかけて101.16円へ上昇、今年7月8日の高値(101.53円)に迫る勢いとなっている。豪ドルも、米株価の大幅反発には全く反応せず、ドル/円とほぼ同様に下落が継続、途中Stevens・RBA総裁が(豪ドル売り)為替介入に引き続きオープンマインドと述べたことも、これまでのRBA高官の一連の豪ドル安誘導発言と整合的でサプライズはなかったものの追加的な豪ドル売り材料となり、対米ドルで一時0.92ドル割れとなった(安値0.9199ドル)。

欧州では、ユーロ/ドルはユーロ圏PMI発表に絡み、東京時間午後5時発表のフランス分が製造業(47.8)、サービス業(48.8)といずれも前月および市場予想を大きく下回ったことから続落し一時1.34ドル丁度となった。その後、ユーロ圏分もサービス業(50.9)および総合(51.5)が市場予想を下回ったが、製造業(51.5)は市場予想比下振れしなかったことから買い戻されていた中、Draghi・ECB総裁が中銀預金金利のマイナス化に関して、私の言葉からマイナス金利の可能性について何かを推測しようとするのはやめてほしい、新たなニュースは何もない、と述べ市場の追加緩和期待を打ち消したかたちとなったことから、ユーロ/ドルは1.35ドル丁度手前まで持ち直している。

ポンドも英11月分CPI製造業受注が11と前月(-4)および市場予想(1)を大きく上回り英景気の相対的堅調を改めて裏付ける結果となり、対ドルで東京時間の安値(1.6073ドル)からNY時間引けにかけて1.62ドル台乗せへ大幅上昇、他の主要通貨をアウトパフォームした。特に対円では2009年以來の164円に迫る水準へ上昇、ユーロ/ポンドは11月7日の安値(0.8300ポンド)に迫る水準へ下落している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+1.1	-0.00	-0.00	-0.00	-0.03	-0.01	+0.02	+0.8	+1.9	+2.0	+2.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	+0.01	+0.00	-0.00	+0.04	+0.03	-0.01	-0.1	+0.8	+2.0	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.6	+0.01	+0.01	-0.00	+0.10	+0.09	-0.01	+0.0	+0.8		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-1.1	+0.03	+0.02	-0.00	+0.08	+0.07	-0.01	+0.8	-0.0	+0.8	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.8	+0.00	+0.00	-0.00	+0.07	+0.06	-0.01	+0.8	-0.0	+0.8	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.6	+0.01	-0.00	-0.02	-0.00	-0.01	-0.01	+0.8	+2.0	+0.8	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

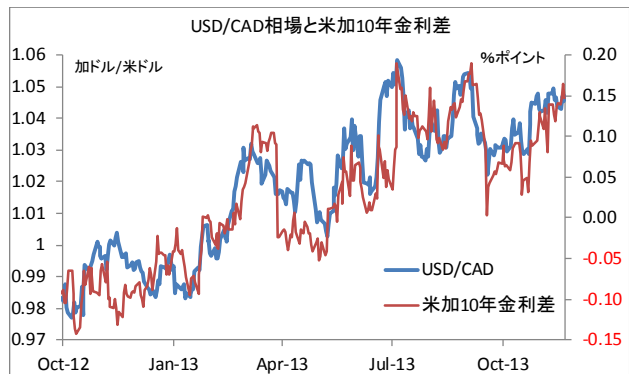
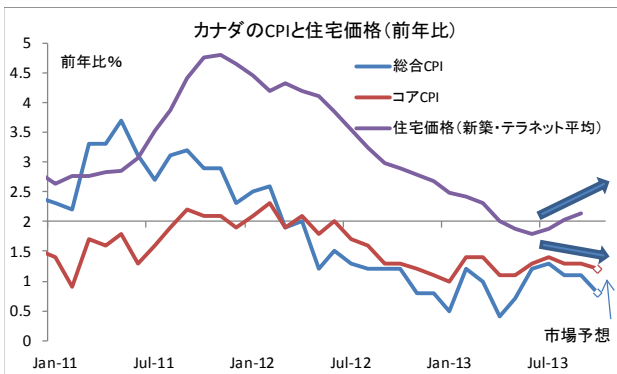
きょうの高慢な偏見：カナダも通貨安志向

本日の相場材料としては、①McDermott・RBNZ副総裁発言(7:30、為替相場について)、②Noyer 仏中銀総裁、Praet・ECB理事、Nowotny オーストリア中銀総裁発言(17:00)、③独11月Ifo景況感指数(18:00、前月107.4、市場予想107.7)、④カナダ10月コアCPI前年比(22:30、前月+1.3%、市場予想+1.2%)、⑤カナダ9月小売売上高(22:30、前月+0.4%、市場予想+0.3%、除く自動車前月比)、⑥George カンザスシティ連銀総裁発言(22:40、タカ派、投票権あり)、⑦Tarullo・FRB理事発言(2:15、中立、投票権あり)、などが予定されている。

ドル/円は、FOMC議事要旨はハト派ではなかったが3月以前の緩和縮小開始を必ずしも強く示唆するものではなく、昨日は米長期債利回りは低下、株価は上昇するなど縮小開始期待の強まりを反映した相場展開とは必ずしも言えなかった。にも拘らず上昇していることは、経済指標やFed高官発言に左右されつつも、12月6日の

次回雇用統計を待たずして、緩和縮小早期化期待を織り込むかたちで、103 円に向けて続伸する可能性が示唆される。

比較的材料に乏しい中、カナダのコア CPI に注目してみたい。カナダでも欧州と同様に総合 CPI 前年比は前月の+1.1%から+0.8%へ低下する見込みだが、カナダでは変動の大きい 8 項目を除いたコア CPI が重視されており、コア CPI の方は伸び率は横ばい傾向ながら+1.2%と前月の+1.3%からの低下は小幅の予想となっており（**下図を参照**）、市場予想を下回る場合には世界的デフレ懸念という見方がある中でカナダドル安圧力が強まり易いだろう。米ドル/カナダドル相場は米・カナダ 10 年金利差と非常に密接に連動して動いており、足許では米量的緩和縮小開始の思惑が根強い中で相対的に米金利の上昇の方がやや大きいことから、米ドル高カナダドル安基調となっている（**下図を参照**）。カナダ中銀は輸出・投資主導の成長へのシフトを志向しており、そのためにはカナダドル安が必要と考えていることから、コア CPI が市場予想比下振れした場合、利下げには動かずともカナダドル安は歓迎だろう。当社は将来的には、足許バブル的状况となっているカナダ住宅市場への対応から、現在市場が想定している来年末より早いタイミングでの利上げ開始が必要になるとみておりそれに伴いカナダドルもいずれ上昇するとみているが、目先は米国の量的緩和縮小からくる米ドル高カナダドル一段安が先に来る可能性が高いだろう（当社ウィークリーレポート「[カナダ利上げは彼方先ではない](#)」も参照）。



その他の材料では、RBNZ 副総裁は特に為替市場に関する発言であるため、足許ピークからはやや下がっているが高水準と言える NZ ドルについて、どの程度強い通貨安誘導、あるいは通貨高を受けた利上げの必要性の低下を示すかが注目され、NZ ドルは下落バイアスがある。ユーロについては、Praet 理事は追加緩和の可能性を示唆するハト派的な発言が予想される一方、サプライズがあるとすれば足許景気の勢いが弱いフランスの Noyer 総裁が今後の追加緩和の必要性についてどのような発言をするかが注目され、ユーロ安バイアスがある。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

